



3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます

今年も残り少なくなりました。コロナ禍という今まで誰もが経験したことのない1年間にどんな本に出会いましたか。世相を反映して、過去の感染症を取り上げた本に注目が集まりました。本の中には、生きて行く上での知恵や色々な悩みを解決してくれるヒントが詰まっています。そして、本から得た知識が自分を救ってくれ、将来の財産になったらと思っています。



令和2年度 第10号
若松原中学校図書室

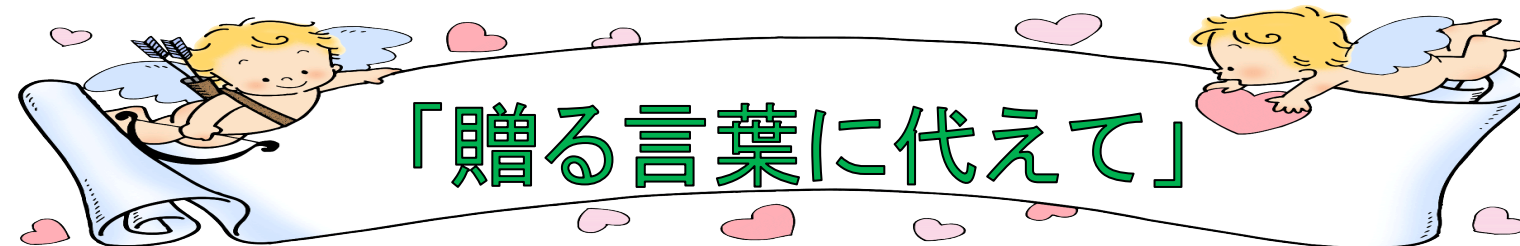
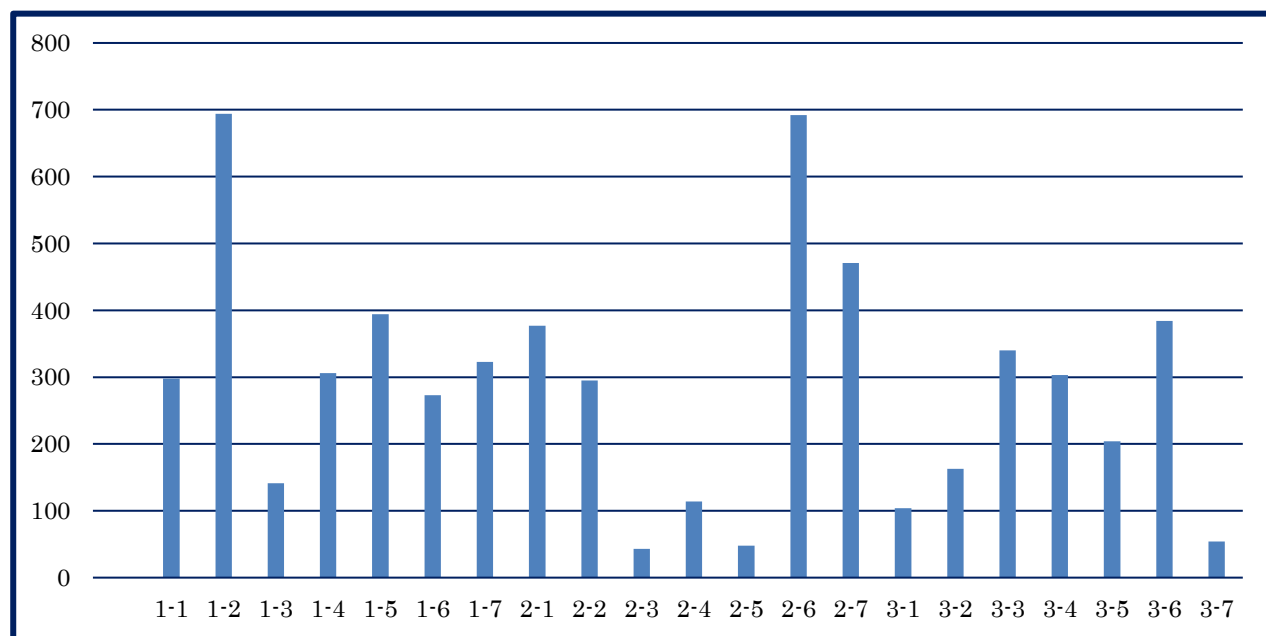
本の返却は、3月12日(金)までに

通常借りている本、総合の学習で使った本、辞書など自分の周り、教室などもう一度点検してください。また、学級文庫も図書室に持って来てください。

クラス別貸出冊数

今年度の貸出し冊数の多い生徒、各学年5名に「多読賞」を贈ります。一番多く借りた生徒は、2年生で482冊でした。しかし、残念なことに1冊も借りていない生徒もいます。図書室には、文学作品はもちろん、写真集など気晴らしに見る本もたくさんあります。興味を持つ本は人それぞれです。自分のペースで読書を始めて本の面白さを感じてください。図書室は、4階で窓からの眺望も素晴らしく、晴れた日には富士山が見えます。春の日差しを感じながら、読書はいかがですか。

下のグラフは「クラス別貸出冊数」です。クラス毎にかなりのばらつきがあるようです。



卒業する皆さん、進級する皆さんにおすすめの本を紹介します。

「なぜ僕らは働くのか」 池上彰 GAKKEN



表紙イラストと各章冒頭のマンガは、佳奈さん。温かみのあるタッチ、やさしさあふれる表情の描写がとても素敵な本です。この本の主人公・ハヤトは将来に悩む中学生。そんなハヤトがある日、まだ完成していない一冊の本を読むようになります。日々を一生懸命に過ごしながら、世の中や仕事のことについて知り、成長する主人公。そんな等身大の主人公に自分を重ねることで、スムーズに本の内容が心に響いていきます。図解ページは、イラストがふんだんに使われていて、眺めるだけでも内容を十分に理解できます。働くことの意味、生活にかかるお金、AI時代の働き方、勉強することの意味、やりたいことの見つけ方、後悔しない生き方…今を生きる私たちに必要な知識や考え方を教えてくれます。



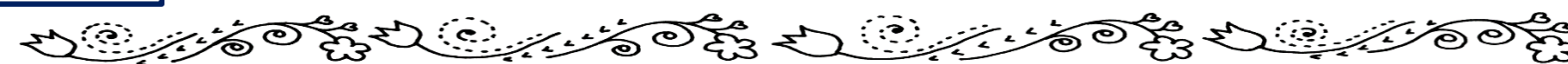
「失敗図鑑 すごい人ほどダメだった！」 大野正人 文響社

新しいことに挑戦しようとするとき、そこには、失敗はつきものです。わかっている、できれば失敗したくない。だからついつい、安全なほうを選んだり、失敗したことを受け止めず言い訳をしてしまったり。偉人たちの失敗から、失敗することの大切さ、失敗した後はどうするか。ページをめくると、愉快で深い、死後くんのイラストに圧倒されます。



「風のことば 空のことば～語りかける辞書」長田 弘・いせひでこ 講談社

項目は五十音順になっており、「辞典」のような構成です。しかし、その内容は、長田さんが語りかけてくるような言葉が詰まった「詩集」。長田さんの詩を絵本化した、画家のいせひでこさんの絵が、すべての見開きに入っていて、「絵本」のような雰囲気も漂います。何気なくページをめくれば、言葉と絵がさわやかな風と空を運んでくれます。



「スマホ脳」 アンディッシュ・ハンセン 新潮社

平均で1日4時間、若者の2割が7時間も使うスマホ。しかしスティーブ・ジョブズを筆頭に、IT業界のトップはわが子にデジタル・デバイスを与えないという。なぜか?睡眠障害、うつ、記憶力や集中力、学力の低下、依存など最新研究をもとにスマホの便利さに溺れているうちに、あなたの脳が確実に蝕まれていくと警鐘を鳴らしています。そして、スマホによってもたらされる人間の脳や精神面の影響を、実験結果や人間の進化の過程から解き明かしてくれます。巻末には、単にスマホを使うことを否定するだけでなく、「デジタル時代」を生きて行く上でのアドバイスも書かれています。

